

茗溪学園高等学校

個人課題研究の手引き

42 回生
2020～2021

高校1年 _____組 _____番

高校2年 _____組 _____番 氏名_____

はじめに

◆ 個人課題研究とは

茗溪学園が開学してからこれまで続いている卒業必須科目、それが個人課題研究です。茗溪学園高等学校に所属する IB 生以外の生徒が取り組む活動で、以下のような特徴があります。

- 生徒一人ひとりが、研究テーマを独自に設定する
- 課題指導者のもとで、長い時間をかけて自らが主体となって取り組む
- “調べ学習”ではなく、“研究”を行う

茗溪学園は「大学に行きたいから大学に行く」のではなく、「学びたい学問があるから大学を目指す」という進路選択のスタイルを採用しています。個人課題研究は、与えられた課題ではなく自ら関心のある領域を選択するため、進路選択を考える活動の一環として位置づけられているのです。

◆ 個人課題研究を通して習得してほしい力

1. 研究テーマを自主的に設定することができる力
2. 見通しをもって研究の計画を立てる力
3. 研究過程において、常に活動を振り返り、計画を見直していく力
4. 研究目的にあった研究方法を選択し実行する力
5. 研究中に高いモチベーションを持ち続け、根気よく研究活動を続けていく力
6. 論文を論理的に構成し、要綱に示された形式で書く力
7. 研究成果をわかりやすく人々に伝える力
8. 課題指導者や外部専門家との良好なコミュニケーションから成果を生み出す力

◆ この冊子の使い方と目的

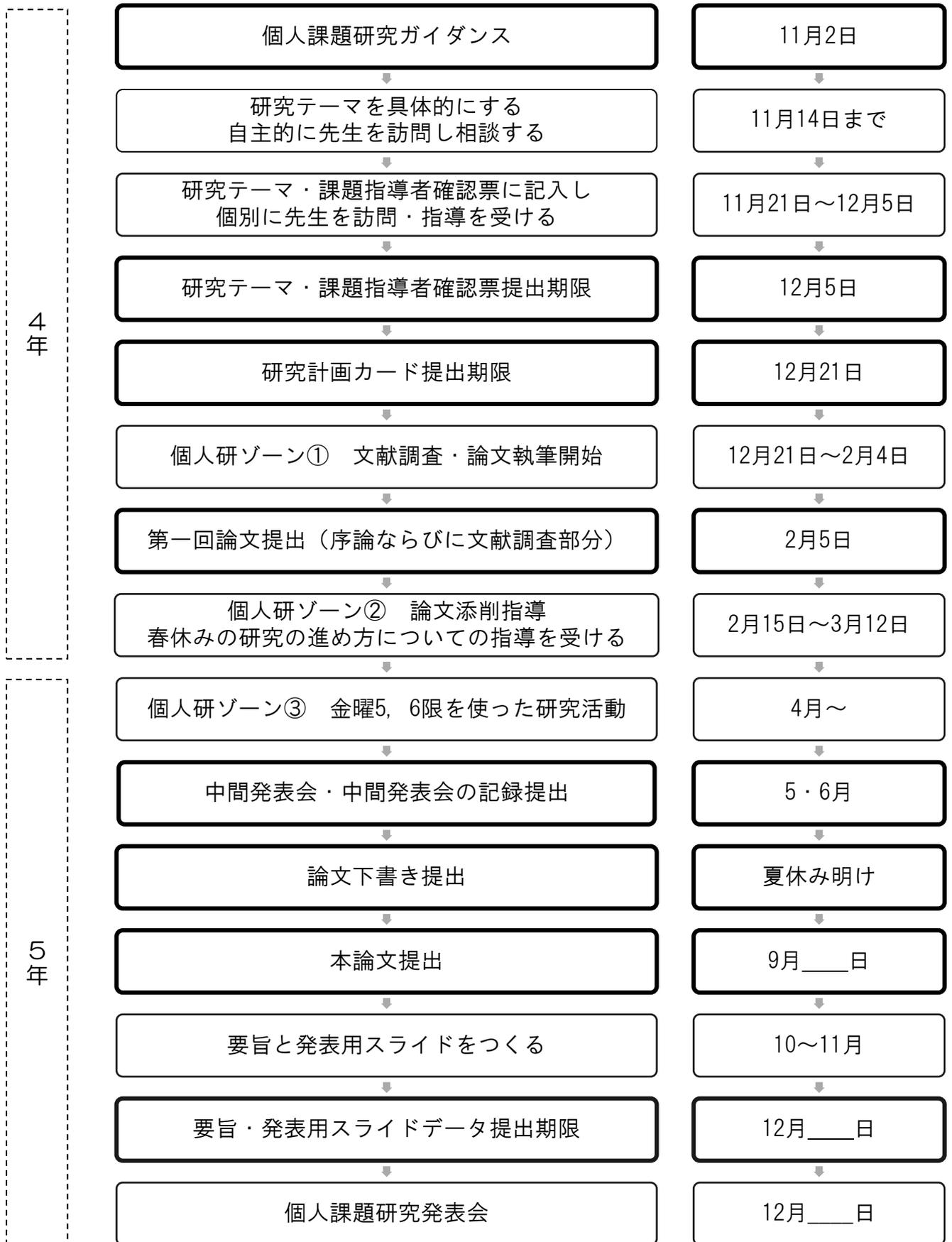
1. 個人課題研究がスタートする前に読む個人課題研究入門書として
2. テーマ決めの準備や資料を探すための参考書として
3. 論文を書くときに確認する設定書として
4. 提出用紙を保管しておく台紙として

これまでに皆さんが取り組んできた日々の授業、研修などで課されたレポートや宿題は、個人課題研究につながっています。

自分で選んだ学問領域を理解し、その中から問題を見つけ出し、情報をあつめ、整理し、まとめ、発表するというプロセスを経験して、それぞれの能力を高め、将来の高度な学習への足掛かりとしてください。

個人課題研究は長い時間をかけて取り組みます。茗溪学園の取り組みの中でも一番、気力・体力・精神力を使う大プロジェクトです。自分と向き合い、新しい自分を発見してください。

個人課題研究の流れ（42 回生の例）



1. 研究とは何か

研究の第一歩は、“知ること”から！

研究は、“これってどういうことだろう？” “もっと深く調べてみたい”という欲求から始まります。これは「タネが育つ地面（フィールド）を見つけた」状態です。その分野について調べ、知識を得ることで「研究のタネ」が手に入ります。「研究のタネ」はたくさん用意し、その中から良いものを選び、育てていきます。

◆ レポートと研究の違い

レポート：自分が知ったことや勉強したことをまとめること

＝ すでにわかっていることをまとめる（国内研修旅行のレポートなど）

- ・ 書籍を読んで勉強したこと
 - ・ 現地に行って体験したり実感したりしたこと
- ⇒必ずしもオリジナルのデータを必要としません

研究：知られていない事柄を探りだし、まとめること

＝ 新しい知見（知識）を世界に提供する

- ・ 科学実験や社会実験をする
- ・ 誰も調べていない場所を調査する
- ・ アンケートを実施してオリジナルのデータを収集する
- ・ 独自の視点で複数の文献をまとめなおす
- ・ 新しい方法や発想で作品や製品を作る

◆ 研究＝問題×先行研究×方法 が研究の基本！

| | |
|------|--|
| 問題 | 研究テーマともいう。 自分の興味関心からスタートし、先行研究を調べた上で設定します。 |
| 先行研究 | 過去の先輩・研究者たちがまとめた研究の成果で、先人たちの残した遺産ともいうべきものです。 研究とは、先人たちの成果の積み重ねによって成り立っています。 |
| 方法 | 研究のオリジナリティに大きくかかわる部分です。 理論を元に、誰もが納得する（＝客観的な）方法で問題を解決します。 |

研究＝問題×先行研究×方法は、文系・理系・芸術系・体育系・その他すべての研究に当てはまる。自分に最適な研究を見つけよう。

2. 自分のテーマを見つけよう

テーマ作りは、研究活動の中でも最重要作業！

テーマ探しのための調べものは、論文を書くための調べものではありませんが、自分の興味関心をひろげるためになる大切な作業です。

興味関心のある分野は複数あってもかまいません。幅広くたくさんの知識を得ましょう。

自分の関心のある領域にまつわるキーワードや、どんな研究・問題があるのかについて、ある程度の知識を手に入れましょう。

◆ 興味関心のある領域（＝調べたい領域）を“見つける”

領域は身近なところから探そう。

- 毎日の授業の中で「へー」「なるほど」「おもしろいな」「これはどうなっているんだろう」と感じることができる分野
- 新聞やテレビニュースで「これは見ておかなきゃ」「聞いておこう」と思う分野
- 部活や趣味のことをしている最中に「どうしてこうなるんだろう」と感じる分野
- 自分の将来の仕事に関係する分野

◆ 興味関心のある領域について“知る”

興味関心がある領域（＝調べたい領域）を見つけたら、研究のタネをつくるために、実際にその領域について知ろう。

- インターネット（大学の研究室のページや関連するサイト）
- 新聞（「朝日けんさくくん」や「スクールヨミダス」などのデータベース）
- 入門書（領域についてわかりやすく書いてある本）

◆ 研究のタネをつくろう

異なる関心分野のキーワードを組み合わせたり、領域を知る中で見つけた問題点や課題を身近なことに置き換えたりすることで、自分にぴったりの研究のタネ＝RQ（リサーチ・クエスチョン）がいくつもできます。

3. 本や先行研究を探す

巨人の肩の上に立つ！

「巨人の肩の上に立つ (Standing on the shoulders of giants.)」

…巨人とは、これまで研究を行ってきた、たくさんの人たちのことを指します。

“研究”という行為は、先人たちが協力して積み上げてきた積み木の上に、新たな小さな積み木を乗せることと同じです。そして、あなたが乗せた積み木の上に、誰かが新たな積み木を追加することで、研究は進歩していきます。

◆ 先行研究の種類

- ▶ 書籍：専門書…本文の他に、章末や巻末に参考・引用などの文献リストが載っている本。
テーマに関する文献を探すとき、芋づる式に文献を探ることができるので参考になります。
一般書…文献リストは特に記載されていないものです。
- ▶ 論文：雑誌論文…国内外で出版される研究雑誌に掲載されたもの。掲載されている論文は、その雑誌にふさわしいかどうかや内容に問題がないかについて査読¹をおこなう雑誌が多いため、信ぴょう性は高いとされています。
発表論文…学会、大会、研究会で発表されたもので、査読なしの場合が多い。
大学紀要…大学が組織の研究成果を発表するためにだす冊子です。
- ▶ 個人課題研究論文…茗溪学園の先輩方の論文は進路資料室に保管されています。

◆ 先行研究が見つからない場合

RQ を立ててからの先行研究探しは、比較的時間をかけて行います。なかなか自分のやりたいテーマに合致する先行研究が見つからず、人によっては苦勞するかもしれません。

先行研究から RQ を立てるという方法もあります。研究の序盤は、かたくなに最初の RQ を持ち続けるのではなく、思い切って RQ を見直すことも大切です。

◆ 各種検索サイトの一例

| 書籍の検索につかうサイト | | 論文の検索につかうサイト | |
|--------------|---|----------------|---|
| 国立国会図書館 | https://iss.ndl.go.jp | CiNii | https://ci.nii.ac.jp |
| カーリル | https://calil.jp/ | J-Stage | https://www.jstage.jst.go.jp |
| Webcat Plus | http://webcatplus.nii.ac.jp/ | Google Scholar | https://scholar.google.co.jp |

4. 研究のアプローチと方法

◆ 研究のアプローチ

| | | |
|---|-------------|--|
| 1 | 仮説検証型アプローチ | 仮説とは「ある事象を合理的に説明するために仮に立てる説」のことです。仮説を検証するために実験や観察、計算などの方法を用います。科学や心理学などで用いられます。実験などで定量的なデータ分析を行ない、数量的に厳密な検証が必要です。 |
| 2 | 解説・整理型アプローチ | ある視点にたって文献や映像、歴史的な記録、人からデータを収集、整理して、結論を導きだしていきます。「メリット・デメリットをまとめる」、「類似物の比較」、「問題に対する対策や解決方法の提案」などがあり、社会学、歴史学、言語学などの分野で用いられます。たくさんの文献や人から特徴を見出して整理するもの、資料からある事柄を推測するものなどがあります。 |
| 3 | 課題提案型アプローチ | 社会的な課題の解決方法の提案をはかるような研究では、その課題の背景を丹念に調べあげ、課題を解決する方法をリストアップし、実際にどのような方法をとることが最適なのかを考えていくものです。提案が自己満足に終わらないためにも、専門家に提案を評価してもらう必要があります。 |
| 4 | 制作・開発型アプローチ | 新しい発想で表現した芸術作品をつくったり、新たな機能をもった機械やソフトウェアなどを開発したりするものです。オリジナルの発想が重要なキーであり、過去の作品や製品と比較して、自分の発想がユニークであることを明確にしなければなりません。 |

◆ 研究の方法

| | |
|-----------|--|
| 質問紙調査 | 質問紙（いわゆるアンケート用紙）を使う研究方法です。 ※インターネットを利用するウェブ調査もあります。 |
| 半構造化面接 | インタビュー調査を行う研究方法です。あらかじめ質問を用意しておいて協力者（一人でもグループでも）に自由に語ってもらいます。 |
| 実験 | 研究者が操作できる変数 X と、それにより変化する変数 Y を定義して結果を得る研究方法です。 |
| 観察 | ある視点で対象を観察しデータを収集する方法です。観察時に対象に 関与してはいけません。 |
| アクションリサーチ | 自分の所属する組織や団体の改善を目的とした研究方法です。小さな 集団のメカニズムを明らかにして、現状を改善する活動を実施して効果 を確かめる方法です。 |
| レビュー | あるテーマに関する文献を大量に収集し、それらの論文の結論などを 分析します。ある研究領域そのものの特徴を抽出するような研究では、 この方法をつかいます。 |
| 制作・開発 | 芸術系や工学系などの制作・開発は、発想がポイントになります。先 行研究を丹念に調べ、発想の独自性を主張しなければなりません。 |

5. 論文の書き方

◆ 一般的な論文の構成

個人課題研究の論文は、以下のような構成が基本です。

1. 序論 (Introduction)：動機や社会的背景、研究目的を述べます。
2. 内容 (Contents)：研究内容や調査・実験の研究方法・手続きについて述べます。
3. 結果 (Results)：調査や実験の結果について述べます。
4. 考察 (Discussion)：結果が何を示しているのか自分の考えを述べます。
5. 結論 (Conclusion)：研究目的に対しての結論と今後の課題について述べます。

◆ 序論の内容

個人課題研究の序論（または「はじめに」）では、次のような内容を書きます。

第1章 序論

第1節 動機

…なぜこの研究テーマを選んだのか、個人的な理由を説明する。

第2節 背景

…研究領域やテーマに関して、現状について説明する。その領域における先行研究等も紹介し、自分の研究テーマの独自性や有意性を主張する。また、研究の社会的意義（どのように役立つのか）についても述べる。

第3節 目的

…動機と背景をふまえ、研究の目的（つまり研究の着地点）を明らかにする。

◆ 論文にふさわしい文章

- 論文は客観性が重要であり、個人の主張が全面にわたる一方的な断定は避けます。
- 「私は…」という表現を論文では使いません。論文は個人的な主張を書くものではなく、客観的に論証するものです。同じ理由で「…と思う」「…と感じる」などの表現も使いません。ただし、動機と謝辞については、個人的な内容を書くことがあるので、「筆者は…」や「私は…」などを主語に使うことができます。
- 文末は「…である」「…だ」調で書きます。ただし、謝辞については「…です」「…ます」調にします。
- 主語と述語を対応させ、一文を短くする（3行を超えない）。一つの文に主語・述語は一組を原則にします。
- 口語表現を使いません。とくに、“なので”は文頭におかないようにします。
- 適切な接続詞を用います。

◆ 論文の執筆

個人課題研究の本論文は、別に示す要綱に従って作成します。

◆ 引用の方法

注意！ 論文において、他人が書いた文書を引用せずに書き写すと剽窃^{ひょうせつ}（テストのカンニングと同じ）になります。個人課題研究の単位が認められないことがあるので十分注意が必要です。

引用：他人の文章やその要約を文章の中に取り入れること。自分の論を裏付けるための「材料」としてつかうものです。

引用の要件：①自分の主張する内容が「主」であり、それを補足するためや根拠とするために引用する文章が「従」という関係になっていること。
②自分の文章が引用する文章より長いこと。
③出典が明記されていること。

○短い文章をそのまま引用する場合の書き方

—<<著者名>>（発表年）は、「<<引用文>>」のように言っている。

山田（1996）は、「論文での引用は、あくまでも自分の文章が主で、他人の文章はそれを裏付ける従でなくてはならない」と主張した¹。

○長い文章を要約して引用する場合の書き方

—<<著者名>>（発表年）は、～～を目的として、～～のような研究を行った。その結果、～～ということが明らかになった。

山田（1996）は、生徒が正しい引用方法ができるようになる指導を目的として、新たなカリキュラムを作成した。その結果、75%の生徒が正しく引用できるようになった¹。

¹はページ脚注を入れると自動的に表示される番号です。ページ下部の脚注部分に文献情報を入力しなければなりません。

◆ 引用・参考文献情報の書き方

○書籍

著者名(出版年). 『書名-サブタイトル』. 版表示, 出版社, シリーズ名, シリーズ番号.

○雑誌論文

著者名(出版年). 「論文名」. 『雑誌名』, 巻数(号数), はじめのページ数-終わりのページ数.

○新聞記事

新聞名(掲載年月日). 「記事のタイトル」. 地域と掲載日.

○ウェブページ

作成者名(公開年). ページタイトル. URL. アクセス年月日.

本論文執筆要綱

1. 本論文について

本論文は表紙、本文、資料からなる。表紙にはタイトルと著者名をしるす。本文には研究内容を記述し、資料には研究を補足するための情報を載せる。なお、論文は Microsoft Word を利用して作成する。

2. 表紙ページ

2.1. ページの設定

ページ設定は A4 判縦置き横書きとし、余白は左と下を 25mm、右を 20mm、上を 75mm とする。文字数は 40 字 X 24 行の 1 段組とする。

2.2. 論文タイトル

1 行目に和文タイトルをゴシック体 14pt、サブタイトルは 12pt とし、それぞれ中央揃え、段落の行間 1.5 行で記述する。英文タイトルは Arial 体 14pt、サブタイトルは 12pt でそれぞれ中央揃え、段落の行間を 1.5 行で設定する。和文タイトルと和文サブタイトルの下にそれぞれ英文タイトルと英文サブタイトルを記述する。なお、英文タイトルの記述は任意とする。

2.3. 著者名と指導者名、提出日

論文タイトルから 2 行空けて著者名をゴシック体 12pt、中央揃えで記述する。著者名と所属は「茗溪太郎 (41 回生 5 年 F 組 20 番)」のように中央揃えで記述する。次の行に英文著者名を記述する。英文著者名は姓、名の順とし間に半角スペースを入れる。姓の綴りはアルファベット大文字を使用し「MEIKEI Taro (41-5F-20)」のように記述する。フォントは Century 体 12pt、中央揃えで記述する。次の行に提出日を「2020 年 10 月 2 日」のように記述する。

次に 1 行あけて指導者名をゴシック体 12pt で「(課題指導者) 茗溪花子」のように中央揃えで記述する。

3. 本文

3.1. ページの設定

ページ設定は A4 判縦置き横書きとし、余白は左と下を 25mm、右と上を 20mm とする。文字数は 40 字 X 36 行の 1 段組とする。フッターは 15mm を設定する。表紙ページと本文はセクションで区切り、本文のセクションのフッターにはページ番号を明朝体 10.5pt、中央揃えで書く。

3.2. 本文のページ数

本文のページ数は課題指導者が設定する基準に従う。

3.3. 本文に含まれる内容

論文は、個人課題研究の内容について説得力をもたせるよう論理的かつ的確に表現したものとし、冗長にならないよう注意する。なお、次に掲げるものは本文には含まない。ただし、個人課題研究の成果を示すために必要であれば本文とは別に資料として別に提出してもよい。

[資料にあたるもの]

芸術系の制作物 (音楽, 絵画等)、コンピュータのプログラム、調査用質問紙、実験データなど。ただし、すべてデジタルデータとして提出をしなければならない。

3.4. 区切りと見出し

本文は、章、節、項などに区切り、見出しをつける。章、節、項の見出しは次の 2 つの方法のいずれかを用いる。

①章を 1. 2. 3. …、節を 1.1. 1.2. 1.3. …、項を 1.1.1. 1.1.2. 1.1.3. …

②章を第 1 章 第 2 章 …、節を第 1 節 第 2 節…、項を第 1 項 第 2 項 …

章、節の見出しのフォントはゴシック体 (欧文は Arial 体) とする。また章の前は 1 行空け

る（1章のみ例外で空けない）。項の見出しのフォントは明朝体（欧文は Century 体）、太字とする。章、節、項よりも細分を要する場合の表記法については、著者に委ねる。

3.5. インデント・フォント

3.5.1. 本文のインデントとフォント

本文のフォントは明朝体（欧文の場合は Century 体）とする。段落の1行目の書き出しを1字分空ける。その他本文はすべて左端から書きはじめる。日本語の句読点は指導者の指示がない限り「、」と「。」（欧文の場合は「, (カマ)」と「. (ピリオド)」）を用いる。なお、数式の場合は Times New Roman 体を用いる。

3.5.2. 数字と英字

数字と英字は半角文字を用いる。

3.5.3. カタカナ

カタカナは全角文字を用いる。

3.6. 文体および用語

文章は、口語体の「…だ …である」調とし、専門用語以外は常用漢字ならびに現代かなづかいを用いる。数字は、原則として算用数字を使用する。

3.6.1. 単位

国際単位系が定める書式に基づき、量の値の表示においては数値と単位の間半角スペースを挿入する。ただし、角度を表す単位の°（度）、′（分）、及び″（秒）を用いる場合だけは例外的に数値と単位記号の間にスペースを挿入しない。

国際単位系(SI)に関しては、独立行政法人 産業技術総合研究所計量標準総合センター「国際単位系」(<http://www.nmij.jp/library/units/si/>)を参照のこと。

3.6.2. 専門用語

固有名詞以外の外国語はできるだけ訳語を用いる。必要な場合に限り、初出のところに原綴りを括弧書きで記入する。

3.7. 文献の引用

適切に引用を用いていない論文は認められない。剽窃が発覚したものは単位を認められないので十分な注意が必要である。

3.7.1. 引用文献の記載

引用文献については、本文の引用箇所に括弧書きで「…（佐藤、1991）」や「佐藤（1991）は…と述べた」のように記述する。

3.7.2. 引用文献の記載事項

引用文献の文献情報はページ脚注に書く。文献情報の書き方は別に示す。

3.7.3. 引用文献の体裁

引用文献は一つにつき1段落とし、フォントは本文と同じフォントでサイズを9ptとする。

3.8. 参考文献

参考文献は本文最後に文献リストとして記載する。

3.9. 図と表

3.9.1. 図、表の番号とタイトル

図（写真を含む）、表の番号はそれぞれ、図 1-1、図 1-2 …、表 1-1、表 1-2 …のように章番号と章内の通し番号をつける。フォントはゴシック体 10.5pt でタイトルをつける。タイトルの位置は、表は上、図は下につける。

3.9.2. 図、表の大きさレイアウト

図、表の大きさは、その横幅を本文の2分の1を基準として設定する。レイアウトは、ページの四隅を基準として配置し、本文との間に適宜スペースをとる。

個人課題研究 プロセス評価シート②

文献調査期（12～2月）

高校1年 ___組 ___番 氏名 _____ 課題指導者 _____ 印

担任検印

自己評価①～④の中から、自分が該当すると考えるものの番号に○印をつける。（●印は該当する生徒のみ）

記入し終えたら、課題指導者から点検を受け、締切日までに担任に提出する。

| | | | | |
|-------|--------------------------------------|--------------------------------------|--|--|
| 項目 | 文献の収集 | | | |
| 自己評価 | ① | ② | ③ | ④ |
| 評価規準 | 文献を収集していない。 | 教員から紹介・貸与された文献しか収集していない。 | 図書館、新書マップ、カール等を活用して文献情報を集め、収集した。 | 大学図書館や専門図書、CiNii等を活用して、論文を含めた文献情報を集め、収集した。 |
| 項目 | 文献の理解・要約 | | | |
| 自己評価 | ① | ② | ③ | ④ |
| 評価規準 | 文献を読んでいない。 | 文献を読んだが、理解が不十分かつ要約していない。 | 文献を読み、要約をまとめたが、内容についての理解が不十分なところがある。 | 文献を読み、要約をまとめ、かつ内容の理解も十分である。 |
| 項目 | ●外部の人的・物的リソースのリサーチ | | | |
| 自己評価 | ① | ② | ③ | ④ |
| 評価規準 | 研究テーマに関係する外部の人的・物的リソースについて調べていない。 | 研究テーマに関係する外部の人的・物的リソースを調べはじめたばかりである。 | 研究テーマに関係する外部の人的・物的リソースを幅広く調べたが、まだコンタクトは取っていない。 | 研究テーマに関係する外部の人的・物的リソースを幅広く調べ、すでにコンタクトをとっている。 |
| 項目 | 仮説の設定 ー明確さと適切さー | | | |
| 自己評価 | ① | ② | ③ | ④ |
| 評価規準 | 仮説を設定することができていない。 | 仮説を設定しているが、まだ漠然としている。 | 明確な仮説を設定することができている。 | 明確な仮説があり、検証の可能性も検討されている。 |
| 項目 | 仮説の検証準備 | | | |
| 自己評価 | ① | ② | ③ | ④ |
| 評価規準 | 仮説を検証する方法がわからない。 | 仮説を検証するための方法がわかっているが、まだ準備にかかっていない。 | 仮説を検証するための方法が明確になり、準備がはじまっている。 | 仮説を検証するための方法が明確であり、準備が半分以上進んでいる。 |
| 項目 | 進捗状況 | | | |
| 自己評価 | ① | ② | ③ | ④ |
| 評価規準 | 研究計画から大幅な遅れが見られる。 | 研究計画から多少の遅れが見られる。 | 研究計画通りに順調に進んでいる。 | 研究計画以上に進んでおり、非常に充実した取り組みになっている。 |
| 今後の課題 | （本人が記入） | | | |
| 指導者評価 | ①努力が必要 ②努力を認める ③努力を高く認める | | | |
| 指導内容 | （指導者から聞き取って記入） ※春休みに取り組むべきことを聞き取ること。 | | | |

個人課題研究 プロセス評価シート③ 研究実施期（3～8月）

担任検印

高校2年__組__番 氏名_____ 課題指導者_____印

自己評価①～④の中から、自分が該当すると考えるものの番号に○印をつける。検証方法に応じて【a・b・c】から該当するものを選び記入すること。記入し終えたら、課題指導者から点検を受け、締切日までに担任に提出する。

| | | | | |
|-------|------------------------------------|--------------------------------------|--|--|
| 項目 | 仮説の検証（a）【実験・観察・調査】系 | | | |
| 自己評価 | ① | ② | ③ | ④ |
| 評価規準 | 仮説を検証するための取り組みを行わなかった。 | 実験・観察・調査を実施したが、適切なデータを得ることができなかった。 | 実験・観察・調査を実施し、データを得ることができたが、十分な質と量ではない。 | 実験・観察・調査を実施し、十分な質と量のデータを得ることができた。 |
| 項目 | 仮説の検証（b）【文献調査・外部の人的リソース】系 | | | |
| 自己評価 | ① | ② | ③ | ④ |
| 評価規準 | 仮説を検証するための取り組みを行わなかった。 | 仮説の検証につながるような資料や人的リソースを見つることができなかった。 | 仮説の検証につながるような資料を見つことができたが、まだ不十分である。外部へコンタクトをとったが十分な回答を得られていない。 | 仮説の検証につながるような資料を見つけ、検証可能な状態になった。外部から回答が得られ、検証可能になった。 |
| 項目 | 仮説の検証（c）【制作・開発】系 | | | |
| 自己評価 | ① | ② | ③ | ④ |
| 評価規準 | 制作や開発をまったく行わなかった。 | 制作・開発をはじめたが、終わる見込みがたっていない。 | 制作・開発が進み、ほぼ完成に近づき、研究の目的も達成されつつある。 | 制作・開発が完了し、成果物の評価を受ける段階まで進んでいる。 |
| 項目 | 論文構成の立案 | | | |
| 自己評価 | ① | ② | ③ | ④ |
| 評価規準 | 論文構成の全体像がまったくイメージできていない。 | 論文構成の全体像がぼんやりとしており、これから具体化していく。 | 論文構成の全体像が明確であるが、章節の構成がまだ未決定である。 | 論文構成の全体像が明確で、章節構成も出来上がっている。 |
| 項目 | 進捗状況 | | | |
| 自己評価 | ① | ② | ③ | ④ |
| 評価規準 | 研究計画から大幅な遅れが見られる。 | 研究計画から多少の遅れが見られる。 | 研究計画通りに順調に進んでいる。 | 研究計画以上に進んでおり、非常に充実した取り組みになっている。 |
| 今後の課題 | （本人が記入） | | | |
| 指導者評価 | ①努力が必要 ②努力を認める ③努力を高く認める | | | |
| 指導内容 | （指導者から聞き取って記入） | | | |

外部リソースを活用した人はその情報をここに記録する（研究所、専門家等）

個人課題研究 提出チェックリスト

| 学年 | 提出期限 | 提出すべきもの |
|----|------------|--|
| 4年 | 11/21（土）より | <input type="checkbox"/> ㊦ 研究テーマ・課題指導者確認票 |
| | 12/5（土）まで | <input type="checkbox"/> ㊦ 研究テーマ・課題指導者確認票 <input type="checkbox"/> ㊧ 研究テーマ・課題指導者確認票 ※学年による研究テーマのデータ登録 |
| | 12/21（月）まで | <input type="checkbox"/> ㊦ 活動記録シート <input type="checkbox"/> ㊦ プロセス評価シート① 個人研ゾーン① 文献調査・論文執筆開始 |
| | 2/5（金）まで | <input type="checkbox"/> ㊨ 論文 [Word ファイル] |
| | 3/12（金）まで | <input type="checkbox"/> ㊦ プロセス評価シート② 個人研ゾーン②③ 文献調査・研究実施 |
| | __/__()まで | <input type="checkbox"/> ㊦ 中間発表会の記録 |
| | 8/__()まで | <input type="checkbox"/> ㊧ 本論文下書き <input type="checkbox"/> ㊦ プロセス評価シート③ <input type="checkbox"/> ㊦ 活動記録シート |
| 5年 | 9/__()まで | <input type="checkbox"/> ㊧ 本論文 <input type="checkbox"/> ㊦ 活動記録シート |
| | 11/__()まで | <input type="checkbox"/> ㊧ 製本版本論文 [PDF ファイル] <input type="checkbox"/> ㊦ 製本版本論文・活動記録シート |
| | 12/__()まで | <input type="checkbox"/> ㊧ 要旨 [Word ファイル] <input type="checkbox"/> ㊦ 活動記録シート |
| | 12/__()まで | <input type="checkbox"/> ㊨ 発表用スライド [Power Point ファイル] |
| | 1/__()まで | <input type="checkbox"/> ㊦ プロセス評価シート④ |

㊦：課題指導者へ提出 ㊦：担任 or 学年へ提出 ㊨：ウェブにて提出